

5G利活用型社会デザイン推進コンソーシアム 2024年度 事業計画

2024年 6月

5G利活用型社会デザイン推進コンソーシアム事務局

<https://www.5g-sdc.jp/>

Contents

- 1. コンソーシアムの活動目的と組織体制**
- 2. 各WGの2024年度事業計画**

1. コンソーシアムの活動目的と組織体制

■ 目的

第5世代移動通信システムをはじめとする高度情報通信技術（以下「5G」という。）及びデジタル技術等の利活用の促進と新市場創出を図り、企業や地方公共団体、関係府省庁等の連携により、産業・社会のデジタルトランスフォーメーションを推進するための事業を通じて、我が国経済の発展に貢献することを目的とする。

■ 事業 上記目的を達成するために以下の事業を行う。

- (1) 5G及びデジタル技術等に関するニーズ、ユースケース、課題等の調査検討や政策提言
- (2) 5G及びデジタル技術等に関するサービスの普及啓発にあたり、必要な情報の整理、発信
- (3) 5G及びデジタル技術等に関する市場及び技術動向等の調査研究
- (4) このほか、本コンソーシアムの目的を達成するために必要な事業

5G利活用型社会デザイン推進コンソーシアム（略称：5G-SDC）

第5世代移動通信システムをはじめとする高度情報通信技術及びデジタル技術等の利活用促進と新市場創出を図り、企業や地方公共団体、関係府省庁等の連携により、産業・社会のDXを推進するための事業を行っています。

**5G-SDC による
共創支援**



**IoT AI ビッグデータ
クラウド セキュリティ モバイル
通信（5G・ローカル5G）**

ビジネスモデル

DX

デジタル技術

組織・人材

総 会

座長：東京大学 森川 博之 教授

オブザーバ

総務省 経済産業省 関係団体 地方公共団体等

運営委員会

委員長：三菱電機 長谷川 史樹

利活用WG

会員間の共創促進

調査WG

ビジネス拡大に資する情報支援

普及啓発WG

ユーザーの理解促進

2020年9月24日設立 会員数 71社/団体（2024年 6月 1日 現在）

事務局：一般社団法人 電子情報技術産業協会（JEITA）

(五十音順)

正会員 (63)

1 Accuver株式会社	21 コネクシオ株式会社	41 日本アンテナ株式会社	61 楽天モバイル株式会社
2 AGC株式会社	22 株式会社JVCケンウッド	42 日本電気株式会社	62 ローム株式会社
3 Atayalan, Inc.	23 住友電気工業株式会社	43 日本航空電子工業株式会社	63 株式会社YDKテクノロジーズ
4 APRESIA Systems株式会社	24 住友電設株式会社	44 日本無線株式会社	
5 アラクサラネットワークス株式会社	25 セイコーエプソン株式会社	45 ネットワンシステムズ株式会社	
6 アルプスアルパイン株式会社	26 ソニーグループ株式会社	46 ハイテクインター株式会社	
7 アンリツ株式会社	27 大日本印刷株式会社	47 阪急阪神不動産株式会社	
8 株式会社イイガ	28 株式会社竹中工務店	48 株式会社日立国際電気	
9 イオンモール株式会社	29 株式会社タニタ	49 株式会社日立製作所	
10 株式会社インターネットイニシアティブ	30 WNC Japan Incorporated	50 株式会社フジクラ	
11 NECパーソナルコンピュータ株式会社	31 TDK株式会社	51 富士ソフト株式会社	
12 株式会社NTTデータSBC	32 東亜建設工業株式会社	52 株式会社フジタ	
13 沖電気工業株式会社	33 東急株式会社	53 富士通株式会社	
14 オムロン株式会社	34 東急建設株式会社	54 富士フイルムビジネスイノベーション株式会社	
15 オリエンタル白石株式会社	35 株式会社東芝	55 株式会社幕張メッセ	
16 鹿島建設株式会社	36 東芝インフラシステムズ株式会社	56 みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社	
17 株式会社関電工	37 株式会社トーエネック	57 三井不動産株式会社	
18 京セラ株式会社	38 TOPPANホールディングス株式会社	58 三菱電機株式会社	
19 京セラコミュニケーションシステム株式会社	39 西松建設株式会社	59 矢崎エナジーシステム株式会社	
20 コニカミノルタ株式会社	40 日本アイ・ビー・エム株式会社	60 株式会社 米澤物産	

賛助会員 (団体) (6)

1 国立情報学研究所	4 一般社団法人 日本鉄鋼連盟	5 一般社団法人日本縫製機械工業会
2 一般社団法人電子情報技術産業協会	5 一般社団法人日本物流システム機器協会	6 一般社団法人日本ロボット工業会

賛助会員 (地方公共団体) (2)

- 1 石川県
- 2 千葉市



ビジネスマッチング



情報交流会



政府との連携



市場の最新情報



5G関連
ニュース発信



ニーズ・シーズの
データベース

共創ビジネスの具体化に向けた取り組み

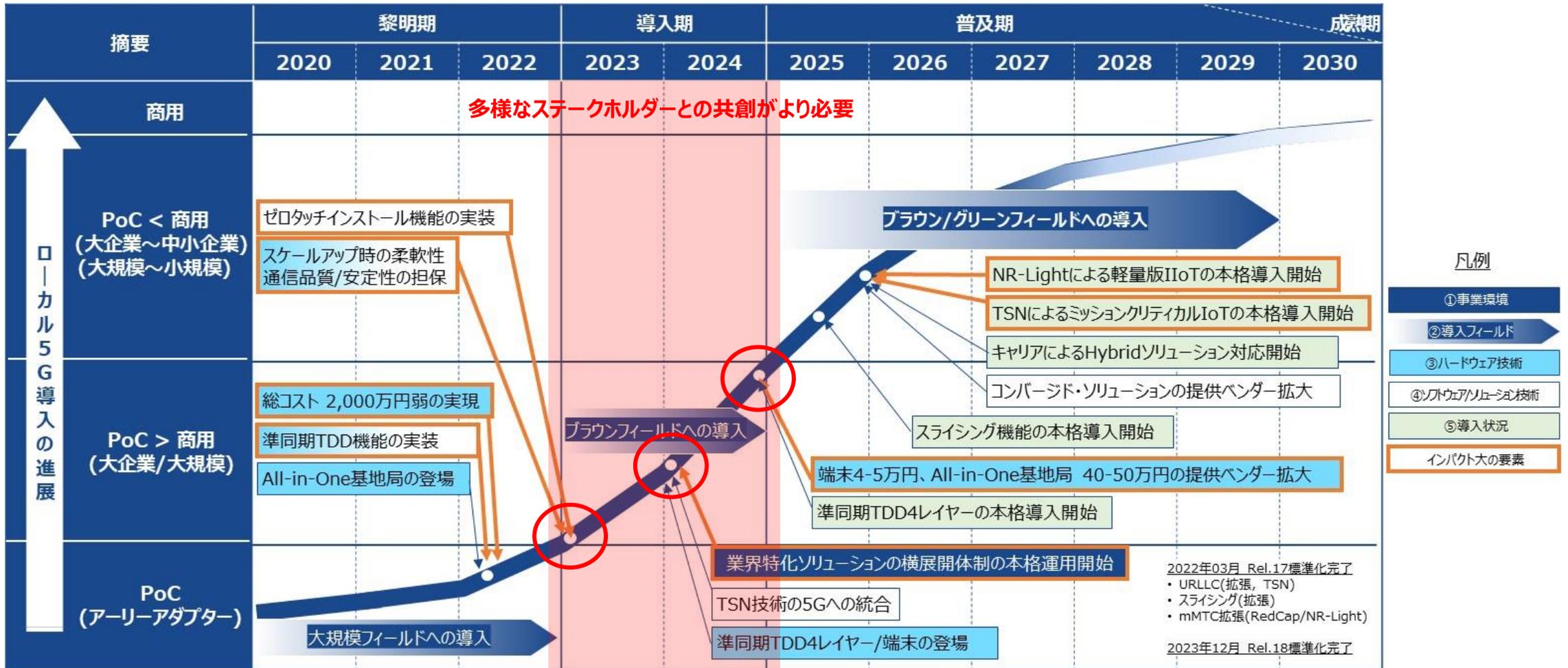
- ・ 業界の垣根を超えたビジネスパートナー発掘イベントの開催。
- ・ 様々な事業者を交えて、サービス実用化に向けた検討。
- ・ 国／自治体等との政策連携。

事業発展に役立つ情報の共有／発信

- ・ 国内外のユースケースや市場動向等の情報収集・分析。
- ・ 会員における5G関連ビジネス等の情報発信。
- ・ 導入側のニーズ、提供側のシーズに関する会員間の情報共有。

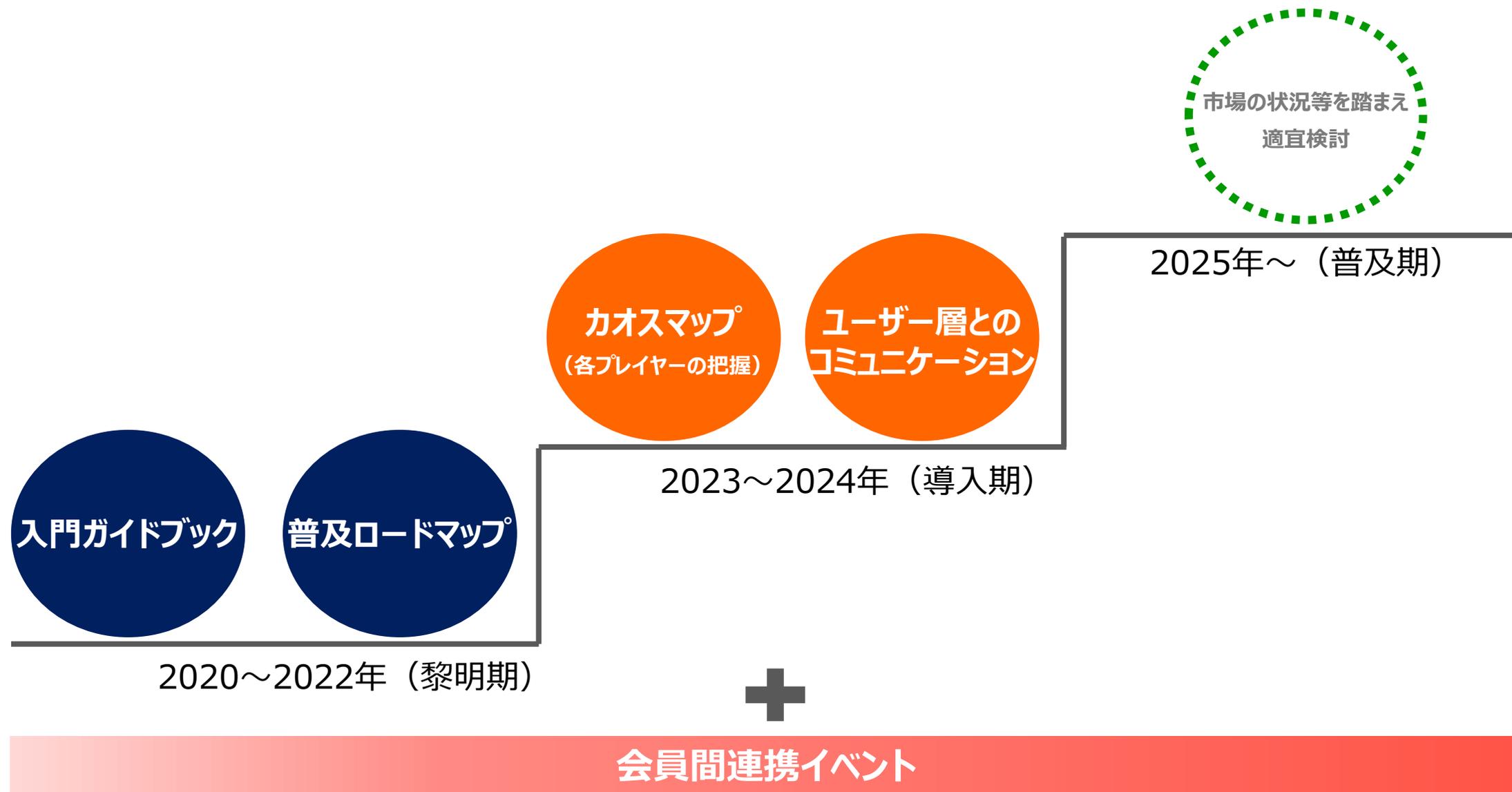
2. 各WGの事業について

- 5G/ローカル5G関連市場は、2023年度より、導入期に差し掛かかっている状況。
- デバイスの機能拡張や低廉化、通信品質の改善、業界特化ソリューションの蓄積/横展開などのボトルネックが存在。解消にあたり、コンソーシアムに求められる機能は「**多様なステークホルダーとの共創促進**」である。



2025年に普及期を迎えるために、導入期の2年間（2023～2024年）の取り組みが重要となる。

コンソーシアムとしては、引き続き、需要喚起ができるよう会員事業者と共に必要な活動を考え、実行する。



WG名称	事業内容	目的
利活用WG	会員間連携促進イベントの開催（情報交流会、ビジネスマッチングなど）	会員間連携促進
	会員のニーズ／シーズ情報の共有	
普及啓発WG	ユーザー層向けのコンテンツ制作（ローカル5G入門ガイドブック）	理解促進 導入支援
	新たなコミュニケーション創出・リレーション構築を目的としたイベント参加・ラボ視察	
調査WG	市場の状況等を踏まえた有効性の高い調査の検討	事業企画 研究開発等の支援

利活用WG

■ 活動目的

事業者間の連携を促し、産業・社会のデジタルトランスフォーメーション（DX）に資する多様なビジネスの創出を支援する。とりわけ、5G／ローカル5Gの利活用による新サービス創出・業務革新等の可能性及び課題についても相互理解を図る。

■ 活動内容

① 会員間連携の促進を図るイベントの実施

- 会員間の連携・共創を後押しするため、情報交流会、ビジネスマッチング等のイベントを企画・実行する。
- 各イベントの成果を最大限活かせるように、イベント終了後は、個別ミーティングやタスクフォース化等の支援を行う。

② ニーズ／シーズ情報の共有

- コンソーシアム会員の5G／ローカル5G等のニーズ／シーズ情報をまとめたデータベースを通じて、情報共有を行う。
- 個別の案件へ発展できるよう、仲介窓口を設け、会員間のコミュニケーションを促す。

※ユースケースの考察や、行政等への働きかけについては、情報交流会からの発展を基本として実施する

利活用WG 2024年度 活動スケジュール (予定)

	2024年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月
利活用 WG			●		●			●			●	
情報交流会 特定のテーマで グループディスカッション				●		●			●			●
ビジネス マッチング 1対1の個別面談				●						●		

ニーズ/シーズデータベース : 毎週水曜日 更新 (申請は常時受付)

備考

- ・ **利活用WGは、主に情報交流会に向けた企画提案のプレゼンテーション及びユーザー層の講演の場**として開催する。
- ・ 情報交流会の日程は、企画提案者と調整の上、決定する。(提案がない場合は、スキップとなる)

- 特定のテーマを設定し会員同士がグループディカッションを実施。5G/ローカル5G関連の人脈形成やビジネスパートナー探索、ビジネス課題の共有/検討など、共創に向けた足がかりとなる機会を提供します。
- 情報交流会の成果を最大限活かせるように、個別ミーティング、プロジェクト/タスクフォース化の支援により、新たなサービス創出に寄与します。

情報交流会

参加者の目的に合わせて、
様々な観点で議論を展開

サービス・技術等の協業可能性の発掘

各社が抱えるビジネス課題等の共有

有望市場・領域の検討

新たな気づき・知見の獲得

コンソーシアムのサポート

個別ミーティング

情報交流会の議論を踏まえ、
具体化の確度を高めるための場

プロジェクト/タスクフォース化

個社間における協業の具体化や
市場投入に向けた課題等の深掘り検討

サービスの市場投入
(ビジネス化・市場活性化)

技術等のボトルネック
解決

※サポートの行使は任意。各々で協業や検討に進むケースもあり、自由度を広く設定。

テーマ名／企画者	目的・内容	各回の参加社数
ローカル5G構築コストに応じたサービス・分野を仮説し狙う NTTデータSBC	各社のローカル5G 取組において、望まれるローカル5G のコスト感や課題など、ざっくばらんに意見交換し、ビジネスの具体化に向けた企画力・発想力を高める。	9社
産業用途への5G活用に対する解決事例 JUKI	5G活用ソリューションの導入検討にあたり、UPLINK優先の通信運用を実施する解決策、実例の共有、遅延時間短縮を実現する解決策・実例の共有を行う。	5社
分散アンテナシステムを利用したカバレッジソリューションによる通信の安定化 東芝インフラシステムズ	分散アンテナシステムを使ったローカル5Gのユースケースの創出を目指し、ローカル5Gのカバーエリア構築における課題を共有・分析し、ユースケースの発掘と適用した際の効果について意見交換を行う。	10社
5G等を活用した建設機械の遠隔および自動・自律運転によるダム堤体施工 大林組	自社施設の見学後、5Gというキーワードをもとに ①新しいビジネスモデル ②社会の問題点や課題の解決案 ③業務の安全性、生産性向上、SDGsといった事案に関しグループ討議を行う。	12社
5G環境下における映像コンテンツ体験、及び5Gビジネス連携 大日本印刷	自社の5G展示コーナーで ①8K映像配信×立体音響、②VRショールーム、および、③電波反射版等のデモを通じて、5G特性を実体験。5Gビジネスでの連携に向けた意見交換を行う。	10社
ビル事業におけるローカル5Gの利活用とデバイス開発に関して 阪急阪神不動産	ビル運営事業者からの導入に向けてのスタンス、メーカーからデバイス開発の課題や状況などの共有を行い、双方の想いの擦り合わせや今後の協業に向けた取組みに繋げる。	9社
5Gを使い易くするミドルウェアの要件検討 日立国際電気	自社が開発した無線ネットワークに付加価値を提供するプラットフォームを題材に、ユースケース及び必要とされる要件に関して議論を行い、5Gをより使い易くするためのミドルウェアに期待することをまとめる	4社
ローカル5G 相互接続の情報交流 京セラコミュニケーションシステム	様々なデバイスが用途に合わせて使い分けたいという導入事業者からのニーズを受け、システムベンダ、デバイスメーカ、インテグレータが保有する相互接続情報の共有の意義と可能性について議論を行う。	12社
デジタル技術導入において陥りやすい課題とその対応策 愛知県	「あいちデジタルアイランドプロジェクト」を背景に、実証実験を進めるうえでの課題についてディスカッションを行い、デジタル技術導入を進めるうえで陥る課題を理解し、その対応策に対する理解を深める。	8社

テーマ名／企画者	目的・内容	各回の参加社数
ローカル5Gの鉄鋼業への導入に向けた必要な設備/機器についての情報交換 日本製鉄	ローカル5Gの持つメリットを最大限活用できる設備/機器の提供をうけることを目指すゴールとして、これまでのフィールド実証により把握できた課題を共有し、解決の糸口に繋がる技術やハード、ノウハウなどの情報交換を行う。	16社
無線NWの通信品質の観点から5Gの最適なユースケース創出を目指して アンリツ	無線LANとセルラー通信(5G、ローカル5Gなど)の違いや特徴を整理し、通信品質の観点で5Gに最適なユースケースを創出することを目的に、特に“接続性”を中心に遅延、カバレッジ、干渉など技術的な側面や、コストと効率性などについて議論する。(5GラボでAGVを用いたデモンストレーションも実施)	11社
60GHz無線通信のローカル5Gへの活用 フジクラ	ローカル5Gのバックホールネットワークへの60GHz無線通信の適用に関し、まずは有用性に関して議論し、次のステップ(実証などの基礎検証)の可能性が見出せた場合は、進め方の具体化を行う。	4社
ローカル5Gの位置測位技術を活用したユースケースに関する意見交換 京セラコミュニケーションシステム	ローカル5Gの超高速・低遅延ネットワークを活かしたまま、付加価値として提供する既存5G端末の位置測位がどのようなユースケースに活用できるのか、デモ体験も交えながらビジネスの可能性を検討する。	5社

参考：企画担当者（ユーザー）が得た主な示唆

① 広大なエリアでローカル5Gを安価に構築する方法

電界強度に対して、伝送速度が低すぎるとの指摘を受け、内部確認を経て、移動局としてアップリンクに強い端末を選定する方向となった。

② 高精細度の画像データを低遅延、複数データを送る方法

低遅延用のカメラ、機器の紹介があり、撮像から5G経由のモニタリングまでの遅延が100msec以下になっていることを知った。

③ 可用性を高める方法

DASのような同一チャネルの電波を複数のアンテナから重複エリアに輻射することで、1本のアンテナとの通信が切れた場合でも、他のアンテナで通信が継続できることを知った。



情報交流会の様子（2時間途切れることなく議論が交わされた）

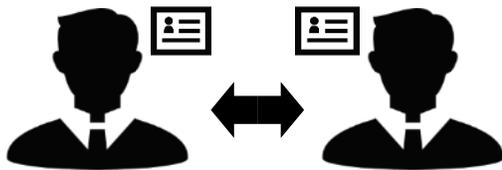
- 会員同士の希望に基づき、1対1の個別ミーティングを実施。5G/ローカル5G関連のビジネスパートナーの発掘に特化した機会を提供します。
- ビジネスマッチング後は、コンソーシアム会員との橋渡し、広報活動の支援により、会員のビジネスを後押しします。

ビジネスマッチング

コンソーシアムのサポート

5G/ローカル5G
関連ビジネスの普及
(市場喚起・サービスの多様化)

クローズドな環境で個別ミーティングを実施し、ビジネスパートナーを発掘



【目的例】

事業拡大・技術協力・サービス導入
共同研究・人材強化 など

会員との橋渡し

ビジネス化等に必要パートナーとして希望される会員へ、事務局が仲介役となり連絡を取ります

※サポートの行使は任意。

広報活動

コンソーシアム事務局が有する広報ネットワークを活用し、情報発信を行います

開催数 6 回

参加事業者数 106 者 (延べ)

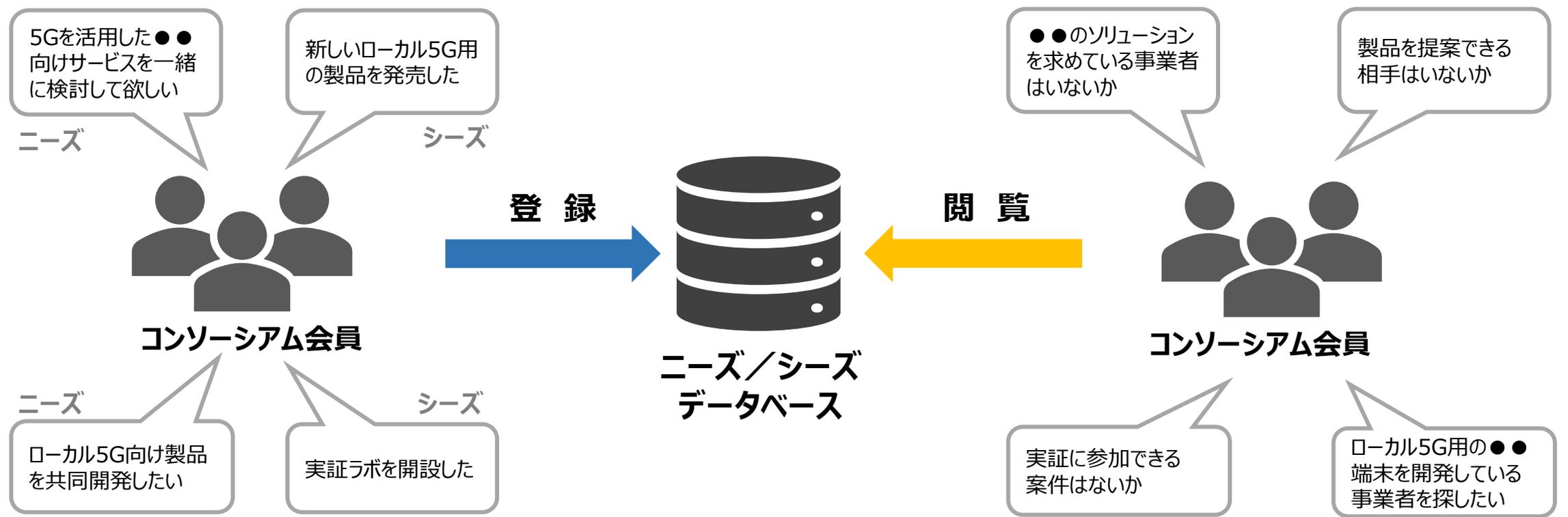
マッチング成立件数 85 件 (成立率 79.4%)

参加者の主な声

- ・ 日頃では接点を持つことが難しい企業と会話することができ、今後のビジネス展開を検討するうえで貴重な機会となった。
- ・ 今まで接点がありませんでした企業と話ができ、新たな発見、新サービス構想の想像を膨らませるヒントになるような内容もあった。
- ・ 元々、企業同士の付き合いはあったが、あまり通信や5Gの担当者と会う機会はなかったため、貴重な話が聞けてとても良かった。
- ・ オファーする側にとって相談先を見つけられる、オファーを受ける側はビジネス機会を得られるため、双方にメリットがあると感じた
- ・ 直接的にはビジネスの可能性はなかったものの、今後の関係性が作れてよかった。長期目線で見ると現時点で意見交換を行うことは意義がある。

会員のニーズやシーズ情報をデータベース化。 ※会員サイトで公開中

会員全体で共有することで、会員間の相互理解を深め、ビジネス機会の創出を後押しします。



**自社の求めに合致した情報があれば
相手方に直接、コンタクトを取ることができます
(事務局が仲介役となります)**

※実質的にマッチングに近い仕組み。
(情報登録している事業者は常時オファーを受付ている状況)

登録数 ニーズ 29件 シーズ 81件

データベースの項目【ニーズ】

- ①企業・団体名
- ②所属部署名
- ③テーマ名
- ④利活用分野
- ⑤対象地域
- ⑥解決したいこと(目的)
- ⑦現在保有しているデータ/
今後取得して活用したいデータ
- ⑧関連URL
- ⑨提案希望期限
- ⑩検索キーワード

データベースの項目【シーズ】

- ①企業・団体名
- ②所属部署名
- ③製品／サービス分類(大項目)
- ④製品／サービス分類(中項目)
- ⑤ステータス(状況)／時期
- ⑥概要
- ⑦利活用分野
- ⑧対応無線ネットワークの種類／構成
- ⑨屋内屋外対応
- ⑩関連URL
- ⑪希望するパートナーシップ／実装に向けた課題
- ⑫検索キーワード

普及啓発WG

■ 活動目的

新たなコミュニケーション創出・リレーション構築に向けた取り組みや、コンソーシアムのプレゼンス向上に資する活動を行う。

■ 活動内容

① 展示会等を活用したコミュニケーションの機会創出（新規）

- ・ デジタルの利活用に感度が高い来場者に対して、コンソーシアムの活動と会員の取り組みをダイレクトにPR。
- ・ 幅広い業界から新規会員を獲得することによって、既存会員の人脈形成や共創の機会創出に寄与する。



② ラボ視察の企画・開催（継続）

- ・ ローカル5G導入支援と普及啓発の一環として、コンソーシアム会員を対象としたラボ視察を実施する。



③ ローカル5G入門ガイドブックの更新（継続）

- ・ 政策動向に応じて内容を更新。
- ・ 専門的な知見を伴う更新が必要になった場合は、対応組織を設置してメンバーを募る。



■ ローカル5G入門ガイドブックの改訂 (初版公開 2021年6月)

・ 4.0版 発行 (2023年10月23日)

「会員が保有するラボ施設の紹介ページ」を更新

・ 5.0版 発行 (2024年3月26日)

「導入検討からサービス開始までのスケジュール」を更新

アクセス件数 (累計) 約 **12,500** (2024年 3月22日 現在)

導入にあたって押さえるべきポイントをわかりやすく解説



掲載URL <https://www.5g-sdc.jp/public/detail/20240326.html>

■ ローカル5Gラボ視察の実施

視察の受け入れ先は会員から募集 (グループ会社含む)

旭化成ネットワークス アンリツ NTTデータ 関電工 京セラみらいエンビジョン 東芝インフラシステムズ

ネットワンシステムズ 日立国際電気

参加者数 延べ **106名** (6月開催の参加予定者を含む)

調査WG

■ 活動方針

- ・ 会員の事業企画(計画)や研究開発、経営判断等に必要とされる情報を見極め、各種調査をこれまで実施してきた。
 - ・ ローカル5G関連市場は、今や市場立上げ時期とは言い難く、広範的な市場調査は既に出尽くしている。
(2022年度に発表した“普及ロードマップ”がある種のスタンダードとして確立している模様)
- また、会員ニーズは黎明期と異なり、導入期に差し掛かっている今、各社のおかれているフェーズにより、**関心や必要な情報が様々であるため、統一的なテーマを導き出すのは難しい**状況にある。
- ・ 従って、2024年度は市場動向を鑑み、期中に有志を募集・招集し、調査の必要性に関する議論から始める。

■ 活動スケジュール (予定)

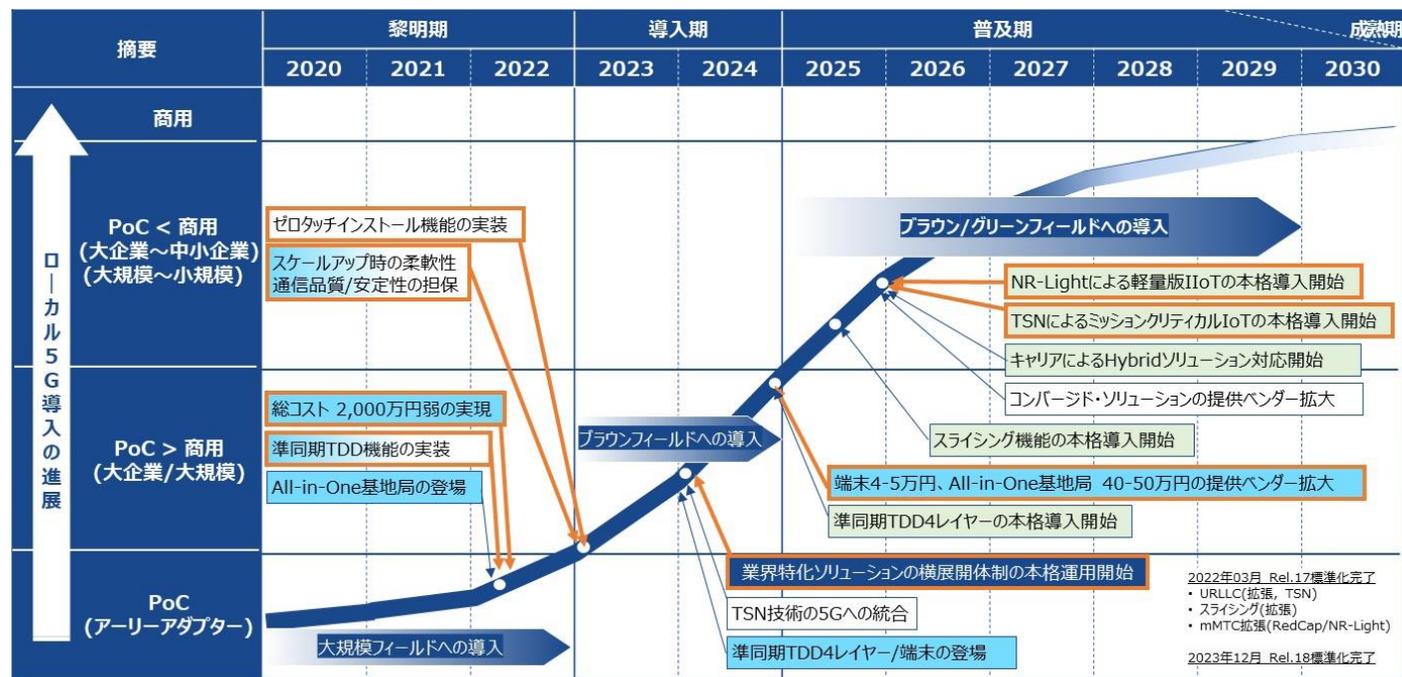


- ・ 会員事業者のメリット並びにコンソーシアムとしての意義のバランスを意識した議論をまずは行う。
- ・ 有効性の仮説検証のために、年度内に調査（2025年度に向けた予備調査の位置づけ）も行うといったオプションも想定。

- 会員における今後の事業戦略の検討等を後押しすることを念頭に、5G/ローカル5Gを活用したサービスの**市場が本格的に立ち上がる時期やその先の見通しを多角的な視点をもって把握**するため、「**ローカル5G関連市場見通し調査**」を実施した。
- 調査レポートのエグゼクティブサマリーを公表すると共に、記者説明会を開催し、市場関係者に対して広く情報発信を行った。

調査レポートの全体像

普及ロードマップ



ローカル5Gの普及が進展するための条件となり得る要素を“マイルストーン”として提示

文献調査

基礎動向の把握

(ハード・システム技術、ビジネス環境)



インタビュー

サービス展開等の実態把握

(対象：国内外15のユーザー、ベンダー)

分析・考察

- 会員の共創ビジネス促進を念頭に、“5G/ローカル5G関連のプレイヤーや潜在的ユーザー層の動向”を俯瞰的に把握するため、「5G・ローカル5Gカオスマップ調査」を実施した。
- 協業先（調達先）の探索や同業/異業種の傾向分析、事業展開の方向性などの検討に活用することを想定したもの。

調査レポートの全体像

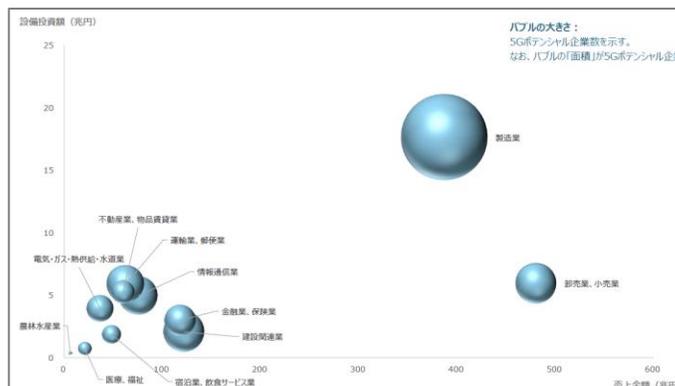
“情報収集”と“情報活用”をワンパッケージ

サプライヤーカオスマップ

The image shows a complex web-based interface for the Supplier Chaos Map. It is organized into several sections:

- 1 コーディネーター・サービス**: Lists various service providers.
- 2 アプリケーション開発者**: Categorized into 2.1 (IoT/Cloud), 2.2 (AI/ML), and 2.3 (AR/VR).
- 3 IUE提供者**: Lists providers for Industrial User Equipment.
- 4 通信機器部品・運用者**: Lists components and operators for communication equipment.
- 5 通信環境向け基盤・システムベンダー**: Lists infrastructure and system vendors.
- 6 通信向け部品・材料提供者**: Lists component and material suppliers.

ユーザーカオスマップ



5G活用事業戦略分析シート

分析対象	業種	5G活用事業戦略	5G活用事業戦略分析
製造業	自動車	自動運転、遠隔操作、部品供給、工場内通信、スマート工場、スマート工場、スマート工場、スマート工場	自動運転、遠隔操作、部品供給、工場内通信、スマート工場、スマート工場、スマート工場、スマート工場
	半導体	半導体製造、半導体検査、半導体パッケージング、半導体パッケージング、半導体パッケージング、半導体パッケージング	半導体製造、半導体検査、半導体パッケージング、半導体パッケージング、半導体パッケージング、半導体パッケージング
建設関連業	建設機械	建設機械、建設機械、建設機械、建設機械、建設機械、建設機械	建設機械、建設機械、建設機械、建設機械、建設機械、建設機械
	建設資材	建設資材、建設資材、建設資材、建設資材、建設資材、建設資材	建設資材、建設資材、建設資材、建設資材、建設資材、建設資材
情報通信業	通信機器	通信機器、通信機器、通信機器、通信機器、通信機器、通信機器	通信機器、通信機器、通信機器、通信機器、通信機器、通信機器
	通信サービス	通信サービス、通信サービス、通信サービス、通信サービス、通信サービス、通信サービス	通信サービス、通信サービス、通信サービス、通信サービス、通信サービス、通信サービス

- ✓ ユーザー環境と5G通信環境のフィールドで整理し7つの分類で事業者を分布したもの。
- ✓ 取扱製品や主ターゲット、実証参加などの情報は詳細シートとして別途まとめている。

- ✓ DX銘柄・DX認定企業が全体の母数。
- ✓ 業界毎に売上と設備投資でプロットし、このうち5Gポテンシャル※をもつ企業数をバブルの大きさで表現
- ✓ 具体的な企業名や各業界のトレンドは詳細シートなどに別途まとめている。

- ✓ 主にサプライヤーが、自社の視点で今後の5G関連の事業戦略を検討を行うためのツール。
- ✓ 項目ごとに本調査で収集した情報と紐づける形で活用方法をガイド。

※5Gポテンシャル = DX銘柄認定時・DX認定申請時の文書において、「物理データ」の利用に関する記載がある企業の数と定義
 物理データ = 物体の位置や温度等、カメラやセンサ等の機械が計測するデータと定義

その他：広報支援、情報提供サービス

- コンソーシアムのプレゼンス向上や更なる活動の活性化と、会員に対する広報的支援や共創促進を目的として、**会員における5G関連の取り組み情報を収集し、WEBサイトに掲載中。**
- 会員の5G関連情報 **掲載件数 約 160 件** (2024年 6月 1日 現在)

<TOPページ> <http://5g-sdc.jp>

<掲載イメージ>

TOPページには日付順に最新6件が表示されます



TOPページに表示されているものも含め【一覧ページ】が表示されます

見出し をクリックすると、**当該情報が掲載された会員のWEBページに遷移します**

- 会員のビジネス支援を目的に、中央省庁・地方公共団体のDX等に資する補助事業等に関する情報を配信（毎月2回）。

● 提供する情報

① 補助助事業：DXや通信設備の導入・開発・実証に関して、中央省庁や地方公共団体が行う補助事業の情報

（想定用途） 自社による補助金活用の検討、新たな営業先の検討等に活用可能

② 参 考

・ 執行団体等の募集： 上記補助事業のうち、補助金を交付する執行団体等の公募情報

（想定用途） 自社が執行団体になることの検討

今後数ヶ月以内に開始される補助事業の情報の先読み等に活用可能

・ 税制優遇等： DXや通信設備の導入、本社や工場移転をする企業に対して法人税減免等の優遇を行う情報

（想定用途） 自社の拠点開設の検討、新たな営業対象地域の検討等に活用可能

検索対象		
次の2グループに分けて、各グループ月1回ずつ（毎月計2回）配信		
中央省庁	総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省	中小企業庁、国土交通省、環境省、防衛省
都道府県	北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、茨城、 栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、富山、 石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知	三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、 島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

5G利活用型社会デザイン推進コンソーシアム（5G-SDC）事務局

〒100-0004 千代田区大手町1-1-3 大手センタービル
(JEITA 事業戦略本部 事業推進部 内)

E-mail : 5g-consortium@jeita.or.jp

WEBサイト : <http://5g-sdc.jp>